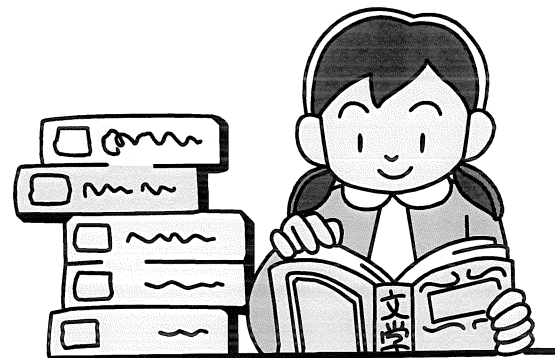


H30

中学生に



おすすめの一冊



明照学園 樹徳中学校

中学生に贈る

H30年度

樹徳一貫校職員

おすすめの一冊

☆「はてしない物語 上下」

(ミヒャエル・エンデ) 岩波少年文庫

映画『ネバーエンディングストーリー』の原作です。私は六十才を過ぎてからこの本を読んだのですが、大変面白かったのです。自分の心で描いたものが現実になっていく。小説の中だけの事ではないような気がします。途中で本を閉じるのがつらくなります。

ファンタジー冒険小説。

(学校長)

☆「君たちはどう生きるか」

(吉野 源三郎) 岩波文庫

吉野源三郎原作の『君たちはどう生きるか』は、昭和十二年の本にもかかわらず、百万部突破のベストセラーとなりました。ジャーナリストの池上彰氏、コピーライターの糸井重里氏も絶賛、また、ジブリの宮崎駿氏が映画化するともいわれています。

『君たちはどう生きるか』は、お父さんを三年前に亡くした中学二年生、「コペル君」と本田潤一君が、日常生活で直面するさまざまな問題を通して、母方の叔父さんと、生き方を考えて成長して行く物語です。

一九三〇年代に、若い読者へ向けて書かれた本書は、幅広い年代の読者を獲得しつつけながら今日まで読み継がれています。

「君たちはどう生きるか」という問いに、あなたならどう答えるだろうか。ぜひあなたなりの答えを見つけてください。

(澁谷)

☆「友情」(武者小路実篤) 新潮文庫

作者・武者小路実篤の作品はもちろん、名前だけでも知っているという中学生は多くはないのではないだろうか。大正時代から昭和の戦前にかけて「白樺派」という大きな文学運動がありました。志賀直哉とともに武者小路実篤はその中心人物でした。国語便覧などで調べてみましょう。私が「友情」を読んだのは、小学生から中学生になる三月のことだったと記憶しています。小学館の学習雑誌の付録として読んだのではなかったかと思います。今から思うと、古典的な恋愛小説ですが、「文学」に目覚めた瞬間だったような気がします。文庫本で読めるはずですよ。

(石原)

☆「とんび」(重松 清) 角川文庫

妻を失った父親が息子の反抗期や学校でのトラブル、受験、自立、意外な女性との結婚など様々な困難に直面し、悩みながらも息子の幸せを第一に考え、周囲の支えを受けながら男手一つで息子を育てた父の半生と親子の絆を描いたものです。不器用で魅力ある父親像に心が揺す振られました。

(富岡)

☆「賢者の書」(喜多川 泰)

デイスカバー・トゥウェンティワン

14歳の少年が9人の賢者を訪ね、賢者の書を完成させる旅にでます。

本書を読み終えるころには、あなたの今までの考え方に何かしらの影響を与えるでしょう。全編わかりやすい例え話で、人の思考に大転換を起こす一冊です。

(小野)



☆「スローカーブを、もう一球」

(山際淳司) 角川文庫

センバツ高校野球で、野球では無名の群馬県立高崎高校が関東代表になった経緯を取材したノンフィクションものです。地味で寡黙で普通の体格の川端俊介というピッチャーに的を絞って、それもスローカーブに焦点を当てた作品。話は、部員が20人ちよつとしかない野球部に素人の野球監督がつき、やはり誰も注目していない川端が主戦投手となつて、何度かの試合に勝つて甲子園に行くというだけのものである。いつ川端がスローカーブを投げるのかという、ただそれだけの引つ張りである。実際に投げるのは2球だけであるが、そのことをついつい心待ちにします。是非読んでみて下さい。

(吉原)

☆「ふたりのロッテ」

(エーリヒ・ケストナー) 岩波少年文庫

オーストリアのケーニッヒ湖畔にある「こどもの家」には、毎年夏になると多くの子供たちが国内各地からやってきて、夏休みを過ごす。ルイーゼ・パルフィーとロッテ・ケルナーは、お互いがあまりにも似ていることに驚き、仲良くなる。そして、互いの生まれた日や生まれた場所が同じことから、自分たちが実は双子であり、離婚した両親が、シングルマザー・シングルファザーを装って、子供を一人ずつ育てていたということを知る。両親を仲直りさせ、家族4人で一緒に暮らせるようにするために、双子はある作戦を実行に移すことになる。作戦は成功するのか胸が高鳴りながら読んだ一冊です。

(保坂)

☆「定理のつくりかた」

(竹山 美宏) 森北出版

数学者はどんなふうに、研究(問題を立てたり、解いたり)しているのかという問題に対して、竹山先生の考えを紹介した本で、読者は数学の研究の疑似体験(「面積を数えて求める」公式を創る体験)をすることができまう。中2で学習する、展開と平方根を知っていれば確実に読めるようにわかりやすく書かれています。

この本を読み終えると、数学の本や問題に限らず、他教科の本や問題を驚くように読み進めたり、考える事ができるようになると思います。

(新井)

☆「翼はいつまでも」(川上健一)

集英社文庫

主人公は男子中学生。勉強は苦手、汗まみれの野球部では補欠。それでも周りの注目を集めたくて、夢中になれるものを探し求めている。中学生ならではの人間関係の葛藤の中で喘ぎながらも、本気で向き合ったからこそ認め合えた。「やっぱり、中学生っていいな、夢があるっていいな」と思える小説です。

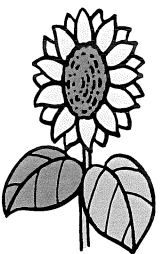
(今泉)

☆「西の魔女が死んだ」(梨木香歩)

新潮文庫

学校が大嫌いで登校を強く拒んでいた小学生の私に、ある日突然母が涙を流しながら無言で渡してきた本。さすがに読みました。

(田島 遼)



☆「縞模様のパジャマの少年」

(ジョン・ボイン) 岩波書店

軍人である父親の仕事でベルリンから遠く離れた地に引越してきた主人公、ブルーノは、ある施設に住む少年シュルムとの間に友情が芽生えます。しかしシュルムとその家族はいいつも縞模様の洋服を着ていて、施設の周りを囲むフェンスの外から一步も出ることのできないという不思議な少年でした。ある日、ブルーノは、シュルムに直接会う決意をします。縞模様のパジャマを着て、施設に潜入したのですが……。最後には衝撃的な結末が待っています。「自分と他者の違いは何によって決まるのか」など深く考えさせられる一冊です。

(吉川)

☆「井上靖全詩集」(井上靖) 新潮文庫

全編散文詩で書かれた詩集で、突き放したような表現の中に抒情が漂っている、そんな詩集です。感性が柔らかい中学生の今だからこそ、ぜひ読んでほしい一冊です。たぶん「本物の詩」というものが味わえる贅沢な一冊だと思います。

(静野)

☆「そして誰もいなくなった」

(アガサ・クリステイ) ハヤカワ文庫

言わずと知れた、ミステリーの金字塔です。「謎を解く」という要素はそこまで強いわけではありませんが、結末に至るまでの流れは、美しさすら感じさせます。

(高橋)

☆「スリー・カップス・オブ・ティー」

(グレッグ・モートンソン)

サンクチュアリ・パブリッシング

主人公のグレッグは遭難し、イスラム国であるパキスタンの小さな村の人々に助けられ

ます。そこで村の人たちと交流することで、この土地の人々の温かさに触れ、軍費費ばかりにかかる国家予算のせいで教育を受けられない子どもたちに心を痛めます。テロの根源もしつかりとした教育が受けられないからである、と考え、学校を作るために奔走します。彼の熱意や誠意、人柄に惚れるとともに、世界情勢も考えさせられる一冊です。ぜひ読んでみて下さい。

(田村)

☆「ラプラスの魔女」(東野圭吾)

角川文庫

自然現象を用いて事件が起こせるか：そんなキャッチフレーズで今年映画化された作品です。難しい表現も出てくるので、読むのは少し大変かも知れませんが、科学をもとに事件を考えることが好きな人には、是非おすめのストーリーです。

(小倉)

☆「日本男児」(長友 佑都) ポプラ社

今年話題といえば、サッカーのワールドカップ。日本代表で屈指のDFである長友佑都選手の生き様から、私たちの生き方にも結びつけて考えることができる本です。

「意思あるところ道はできる」

「努力は裏切らない」

などの名言の真意が紹介され、きっと今後の人生の糧となるヒントを得ることができるでしょう。

(田中)

☆「時間を忘れるほど面白い 理科系

雑学」(竹内 均) 知的生き方文庫

読書が苦手な人もいるでしょう。まずは、やさしい本から挑戦してください。この本は「勉強」だけではわからない理科系の面白さが集まっています。今年のグループワークのテーマは「自然科学」です。ぜひ、参考にしてみてください。

(進藤)

☆「モモ」(ミヒャエル・エンデ)

岩波少年文庫

この本に初めて触れたのは小学生の時。図書館での読み聞かせイベントの時でした。そのとき感じたのは、主人公モモの周囲の人々が「時間どろぼう」の計略に巻き込まれてゆくも、最後には…という心躍るような冒険物語のようでした。

その後、大学の図書館でこの本の原書に出会いました。時間が経ち、成長したときに感じたことは、最初に感じたそれではありませんでした。

ボリリュームのある一冊ですが、読むのが苦手でも読み進められる魅力があります。そして、数年後に、ふと、読み返してみてください。「時間どろぼう」は、すでにすぐそばにいるのかもしれない。

(黒沢)

☆「できそこないの男たち」

(福岡伸一) 光文社新書

アダムからイヴが作られたのではない。イヴからアダムが作られたらしいのだ。生命の基本仕様、それは女である。本来すべての生物はまずメスとして発生する。それをカスタマイズして男になるというのだ。男は、なぜ女より病気になるやすいのか、男はなぜ女より寿命が短いのか、そういったものを科学的知見から考察している本である。医学書や科学本と違い、それが真実かはわからないがとても面白い考察をしている本です。

(家住)

☆「たけくらべ」(樋口一葉) 新潮文庫

高校の日本史の教科書には必ず載っている有名作品です。主人公は十四歳。現代の中学生と同世代です。時代は明治時代ですが、現代の中学生が読んでも、共感できる部分があるのではないのでしょうか。

(岡村)

☆ 中学生からの大学講義3

『科学は未来をひらく』

「ちくまプリマー新書」

「中学生からの大学講義」のシリーズもの。村上陽一郎・中村桂子・佐藤勝彦・高薮緑・西成活裕・長谷川眞理子・藤田紘一郎・福岡伸一という諸先生がわかりやすく講義してくれています。また、諸先生のおすすめの本も紹介してくれています。二〇一六年度の高校入試問題文にも多く採用されたことは以前にも紹介しました。福岡伸一先生の「動的平衡」をはじめ、それぞれの著作の入門書になるかと思います。

(大堀)

☆「はじめての文学」(村上春樹)

文藝春秋

著者自らが若い人々へ向けて選出した短編小説一七編で構成されており、最後の「かえるくん、東京を救う」は、阪神・淡路大震災のアフターマス(災害後に残った余波的な危険)をテーマに、平凡なサラリーマンが言葉を通して能弁で巨大なかえるくんに導かれてとんでもない冒険に巻き込まれていくというファンタジー色の濃い物語です。このような作品を糸口に、本格的な「文学」の門を叩いてみては・・・。

(須藤)

☆「ロウソクの科学」

(マイケル・ファラデー) 角川文庫

英国を代表する科学者ファラデーが1860年ロンドンで行った公開講演がこの本の基礎となっています。原題は「The Chemical History of A Candle」(ロウソクの化学誌) 講演は簡単な実験装置を用い、燃焼、呼吸などの仕組みを解りやすく伝えた感動的な講演です。105年前にタイムスリップしてファラデーの名講義を聴いてみて下さい。

(荻野)

☆「伊豆の踊子」(川端康成) 新潮文庫

旧制高校生である主人公が、旅芸人の踊子に出会い……。This is 初恋。

踊子といえば、森鷗外の「舞姫」もおすすめです。高校の『現代文』の教科書に載っています。(横倉)

☆「少年少女飛行倶楽部」(加納朋子)

文春文庫

中学一年生の海月が幼馴染の樹絵里に誘われて入部したのは「飛行クラブ」。メンバーは二年生の変人部長・神、通称カミサマをはじめとするワケあり部員たち。果たして、海月たちは空に舞い上がれることが出来るのか？まさに青春小説であり、主人公たちがとても初々しくて一生懸命で応援したくなります。僕も飛びたいなあ。(薊)

☆「ワンダー」(R・J・パラシオ)

ほるぷ出版

八歳の児童から七〇代の大人までの幅広い層に支持され、全世界で一二〇〇万部の読者層を持つ大ベストセラー書です。今季、映画化もされている旬の本でもあります。

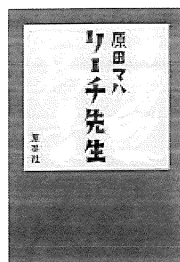
作品構成は、顔に重い障害を持つ「オーガスト」を中心に姉、友人などの「独白」の形で物語は進みます。読みやすいと思います。そして、ラスト。ワンダーが起こります。スタンディングオベーションの爽やかな感動が、読む「キミ」を待っています！

(宮沢)

2018 高校入試 によく出題されていた本

☆『リーチ先生』 原田マハ [集英社]

〈北海道〉〈富山〉〈埼玉〉〈徳島〉〈愛媛〉



☆『モラルの起源 実験社会科学からの問い』 亀田達也 [岩波新書]

〈茨城〉〈徳島〉〈都立産業技術高専〉



☆『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 [ちくまプリマー新書]

〈神奈川〉〈奈良〉

